

学校名	徳島県立徳島商業高等学校
-----	--------------

## 平成29年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

### I 委託事業の内容

#### 1. 研究開発課題名

Deep in Tokushima

～徳商版「地域創生」人材育成プロジェクト～

#### 2. 研究の目的

地域のことを深くよく知り（DEEP IN TOKUSHIMA）、地域の魅力を創出できる人材を育てる。そして、地域社会に貢献するグローバル人材の育成とそのためモデルプログラムの作成である。

#### 3. 実施期間

契約日から平成30年3月15日まで

#### 4. 当該年度における実施計画

「地域について深くよく知り、地域の魅力を創出できる人材の育成」については、2年目のノウハウを活かし、さらに各学科の特徴に合わせた授業をバージョンアップして行う。学校としては、新たなクラス委員として「地域活性化委員」の創設を行う。これにより、商業の諸活動における各クラス、授業におけるリーダー的な生徒の育成に力を入れ、全校生徒における効果を狙う。また、これまで海外や沖縄などで学んできた「観光」「商品開発」のノウハウを牟岐町などと連携し県内で還元していく。

商業科では「地域連携型イベントの企画・開催」、「地域連携型商品開発」に加え、「生徒提案型フェアトレード商品の開発」に取り組む。また、2年目の後半から取組をスタートさせた先端映像技術（プロジェクションマッピング）に関しては、昨年度から一歩踏み込み、地域を支援できるような映像の作成に挑戦する。会計情報科では「企業の財務諸表分析」「BATIC 講習会の開催と受験」、「徳商デパート各班の財務分析」、情報処理科では地域の企業などに対する「Web作成支援」などを引き続き実施し、地域の魅力を創出できる人材等の育成に取り組む。

3年生の商業科ビジネス経済コースにおける学校設定科目「観光ビジネス」では、引き続き、観光ガイド・商品開発力を持った人材の育成に重点を置いた指導を行う。学校設定科目「観光ビジネス」ではルーブリック手法を用いた評価方法の研究を行い、評価手法の確立を目指す。また、マーケティングコースの3年生では商品開発の授業を増単位（3年生2単位）し、今年度も実施する。その中で、郷土の歴史や文化に触れることで地域の魅力を創出することを目指す。さらに学びの範囲は、京都・沖縄・シェムリアップ以外にも、復興著しい宮城などから観光についてのノウハウを学ぶ。また、商品開発においては、一過性（1つのイベント）の商品開発に留まらず、

市場に流通させることを目的にした定番商品の企画・開発を目指す。そして、開発した商品を海外の生徒と販売するイベントを実施する。

Glocal プロデューサーの育成については、カンボジアとの交流を活かした学びを継続していく。今年度はカンボジアにおけるインターンシップの体験や継続的な国際展示会への参加を通じ、国際感覚の育ったリーダーの育成を図る。また、ドイツとの交流を活かして、3年目も生徒が国際感覚を身に付けられるような機会を設ける。カンボジアからは、実践的な商品開発やマーケティングを学び、ドイツからはビジネスのみならず主権者教育についても学ぶ予定である。その他にも、インバウンド型ツアーの開催など外国人と触れ合う機会を多く設け、東京オリンピックに向け「積極的に外国人とコミュニケーションができる人材」の育成を行う。

指定終了後も継続的な取組ができるよう、SPHの事業に関する会議や研修を、普通科目の教員を含めて実施するとともに、校内体制の充実を図り、他校が参考にしやすいように実践の結果報告だけでなく、教材などを添付した報告書の作成を目指す。また、実践的な取組を含めた研究により生徒がどのように変容したかわかるように、教科「観光ビジネス」及び教科「財務会計」において、ループブック、ポートフォリオ、生徒への意識調査など多面的に評価を実施する。その最終年度の成果報告会については、開発した商品の販売実習等を伴う徳商デパートとの併設型の報告会を目指している。多くの方に関心を持ってもらえる報告会とし、地域の方々にも研究の成果を還元する。

以下に3年目の主な月別計画を示す。

活動時期	活動の内容
4月	各学科事業に沿った授業開始 学校設定科目「観光ビジネス」授業開始 第1回スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール校内運営委員会、実行委員会（必要に応じ随時開催） eラーニングシステム運用開始 テレビ会議システム運用開始
5月	第1回意識調査 情報運用講座の実施（年6回程度）
6月	第1回スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール運営指導委員会 「課題研究」・「商品開発」などにおける企業との連携・商品試作開始 外部講師による講演会 ワールドカフェ （沖縄水産高校 海洋観光と地域資源活用について）
7月	「総合実践」における企業との連携開始 地域産品を活かした商品開発アイデアプレゼンテーション （企業関係者、専門家など外部審査委員を含む）
8月	観光ツアー開催 沖縄における観光調査 中学生向け簿記講座 Web支援（総合実践）のための企業取材
9月	第2回意識調査（中間） 地域素材を活かした観光ツアー実施

10月	県内プロスポーツ連携成果発表会 全国産業教育フェア参加（秋田） ヨーロッパの主権者教育から学ぶ （シェーラベルク職業学校生徒の受け入れ 約1週間）
11月	海外連携型販売イベント（徳商デパート） （カンボジアー日本友好学園生徒の受け入れ 約1週間） 事業成果報告会 外部講師によるシェムリアップの観光について講演会
12月	カンボジア国際見本市への出展（カンボジア商業省主催） カンボジアにおけるインターンシップ シェムリアップにおける観光実態調査 BATIC講習会 Web支援におけるHP完成、企業へ引き継ぎのための資料作成
1月	海外での効果的なWeb表現学習 沖縄県キャリア教育発表会への参加
2月	第3回意識調査（3年目最終）PDMによる評価 第2回スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール運営指導委員会 事前・事後のアンケート調査分析
3月	文部科学省へ事業完了報告書（3年目）等を提出

(1) 地域コンサルタント（地域のことをよく知り、様々な問題に対して柔軟に対応できる人材）の育成

【ねらい】

- （商業科） 地域企業と連携した商品開発や地域活性化に貢献できる人材の育成
- （会計情報科） 財務諸表を読むことができ、地域企業の経営の効率化に寄与できる人材の育成
- （情報処理科） 情報処理技術を用いて、地域企業の Web の作成支援や広報の支援を行える人材の育成
- （全学科） 地域の声に耳を傾け、地域の方々の気持ちに寄り添いながら柔軟にコーディネーターやプロデュースできる人材（課題の発見と解決方法の創造ができる人材）の育成

【実施内容・方法】

（商業科）

商業、特にマーケティング分野の基礎・基本を定着させ、さらに高度な商品開発やマーケティング手法を学び、商品開発やマーケティングなどの知識や技術を身に付けた生徒を育成するために、実際に各企業や産地を訪問し、商品を開発し市場での流通に取り組む。また、発想法や話し方及び聞き方の習得を商業の各科目の中で取り組む。

「商品開発」 徳島県中小企業中央会所属の先駆的取組を行う企業などと共同で地域の資源を掘り起こし、商品開発を行う。さらに商品開発に必要な基礎的知識や心構えについてビジネスの実社会で通用するように実践的に指導する。地域が持つ資源や問題について学習するとともに実践的な商品開発、販売までを実

施する。その際、商品の試作、販売などを企業と共同で実施するとともに、大学や商工会議所などと連携し販売イベントを実施する。また、機会を捉えて様々なコンテストに参加する生徒を増やすことを検討する。（マーケティングコース）

「ビジネス経済」 商品の仕入れや販売に関して地元企業などに考え方や判断基準などを指導してもらい、企業の取引に必要な知識や心構えについてビジネスの実社会で通用するように実践的に指導する。その中で、市場が持つ役割や地域の市場がどのように成り立ち、形成させているのか学ぶ。さらに、実際の仕入から販売までの一連の流れを実習する。（ビジネス経済コース）

「マーケティング」 地元企業の方や経済団体の方から商品を市場に流通させるために必要な知識や心構えについて講演をしていただく。さらに、その知識を生かして実践的な学びにつなぐよう販売実習（徳商デパート）などの機会を活用する。その中で、市場のニーズや地域の市場を活性化するための方策などについて学ぶ。（商業コース、マーケティングコース）

#### （会計情報科）

簿記の基礎・基本を定着させ、さらに高度な会計処理を学びつつ地域企業の取引に対する適切な会計処理ができる能力を有する生徒を育成するために、日商1級など高度な資格取得を目指す。簿記会計の発展的学習として、会計情報科3年生を対象に、グループ学習により上場企業の財務諸表を用いたケーススタディを実施し、プレゼンテーションやディベートを用い、意見交換することで会計情報をビジネスに活用する能力の育成に取り組む。また、徳商デパートなどの機会を活かし、実践的な財務分析を実施し、財務分析を身近に感じる機会を増やす。

「財務会計Ⅰ」 基本的な財務諸表の分析能力を身につけ、会計実務検定、財務諸表分析、日商簿記2級の合格を目指す。

「財務会計Ⅱ」 企業会計、税務に関する知識・技術を習得する。実務的な会計技術を身につけるとともに、e-ラーニングを用いた企業会計の応用知識を習得し、日商簿記1級の会計処理を身につける。また、実務的な会計技術を身につけるとともに、財務諸表を活用したケーススタディを行い、実践的な財務諸表分析と経営効率化についての調査研究を行う。

#### （情報処理科）

情報処理の基礎・基本を定着させ、さらに高度な情報処理技術を学び、地域企業の情報活用に関して適切に運用できる能力を有する生徒を育成するために、基本情報処理技術者試験の資格取得を目指す。また、Web ページ作成支援などの実践実習により、ヒアリング力・Web 作成の技術を培い、調査研究を行う。

「総合実践」 インターネットなど情報の世界ではリアルタイムで情報が活用されている。そこで日本での情報発信だけではなく、海外に向けた情報発信を学ぶことで、世界規模で実践的な情報活用能力を持った人材を育成することを目的とする。第1段階として、HTMLを用いた基礎的なWeb ページの表現方法を学び、第2段階としてホームページの作成支援を希望する地域企業と連携し、日本語版の地域の企業のWeb ページをJIMDOのシステムを活用して作成する。但し、その後の運用や広がりを考え、ページを「作成してあげる」のではなく、企業とともにページのコンセプト作りを行い、「作成方法について教え

る」という方法を実施する。その後、Webのアクセス数が上がるよう、Webページコンサルタントと映像作成などにも取り組む。さらに、PR方法について経済産業省キーパーソンなどの外部講師を招聘し学ぶ。

(全 学 科)

これら研究成果を県民に還元し、報告する場として全学科共同による成果報告会を実施する。実施場所は多くの県民に見てもらうため、複合商用施設やプロスポーツ会場、県内イベントホールなどを候補地とし、最終年度も鳴門ポカリスエットスタジアムにおけるJ2徳島ヴォルティス戦試合会場および、11月初旬におけるイベントホール等の2回を予定している。報告内容として商業科は開発した商品、会計情報科は財務諸表分析などの研究報告、情報処理科は作成したWebページ、全学科としては観光や集客のためのアイデア及び創出した徳島県の魅力の報告を予定している。

(2) 観光ガイド・商品開発力を持った人材（地域の魅力を創出し、プロデュースできる人材）の育成

【ねらい】

(商 業 科) 一過性の商品開発ではなく定番商品「レギュラー商品」開発ができる人材の育成

(全 学 科) 地域観光資源を創出した観光ツアーをプロデュースできる人材の育成

【実施内容・方法】

(商 業 科)

商業科で取り組む科目「商品開発」では、地域の魅力を理解し、新たな地域の魅力を創出することを目的として、地域の企業とコラボレーションし、市場流通可能な商品を開発することを旨とする。

「商品開発」

マーケティングコースにおいては、一過性の商品開発ではなく、定番の「レギュラー商品開発」を実践的に学ぶ科目「商品開発」になるよう関係企業の協力を得ながら指導方法について研究を行う。また、地域に根ざした商業高校として何ができるか、地域に貢献できる人材育成について研究する。

「観光ビジネス」

地域の優れた資源、素材を捉え、それらを広報・広告できる人材の育成を目指す。昨年度から開設した「観光ビジネス」は、シラバスの進度が適当であるか再検証を行うとともに、徳島の良さを活かした観光ツアーを今年度も実施する。また、昨年度までに築いた、京都、沖縄、カンボジアなどの観光都市との連携を大切にし、さらにノウハウを学び、地域の活性化に寄与できるよう研究する。その際、生徒自身が成長していく過程がわかるようにポートフォリオなどを活用する。また、震災の被害を受けた宮城などは新たな都市として生まれ変わりつつある町が多くある。そのため、宮城県を対象としてどのように新たな都市作りをしていくのかについてもさらに研究を深めたい。これらの研究を踏まえ、郷土徳島に還元し、そのポテンシャルの発掘を行う。

(全 学 科)

全校生徒に対し、観光立県とくしまづくりの意識を高め、観光資源を創出し、活用する考え

方を身に付けるため、国内外から観光地域のキーマンに来ていただき、講演会などを実施する。その際「観光」を自らの問題として考え、地域へ還元するアイデアをつくる。これらの成果として3年目は、県内広域を活用した観光プログラムの実施を目指している。

- (3) Glocal プロデューサー（地域の魅力を地域から世界へ発信することができグローバルな感覚を持つプロデューサーの資質を持つ人材）の育成

【ねらい】

- (商業科) 国際的なコミュニケーション力を有する人材の育成
- (会計情報科) 国際的な会計感覚を有する人材の育成
- (情報処理科) 国際情報運用力（情報をTPOに合わせ、必要な場所に必要な情報を効果的に示すことができる能力）を有する人材の育成
- (全学科) 文化や流通の違いを学び、海外との連携を楽しめる人材の育成  
海外での商品流通やマーケティングを学んだ、実践的なコーディネート能力を持つグローバル人材の育成  
卒業後、グローバルな活躍を希望する人材の育成  
実際の販売活動を通して顧客のニーズを知ること、社会に通ずる国際感覚をもつ人材の育成  
主権者感覚を有する人材の育成

【実施内容・方法】

(商業科)

生徒たちの国際経済感覚を養うため、商業科の授業では月1回以上テレビ会議などを用いた国際交流を行う。また、販売実習（徳商デパート）の際にはカンボジアの高校生の参加を促し、国際感覚を磨きながら相互成長できるように、両国の生徒たちが店舗を運営する。

「ビジネス基礎」 商業全般を学ぶための基礎的な知識を身に付ける。（商業科全コース）

「商品開発」 一般企業や大学、海外の企業、学校とも連携し、開発や国際連携型の商品開発に必要な基礎的知識や心構えについて、海外の学生とテレビ会議やSNSなどを活用した情報交換を行い、海外の素材や特産品を活かした商品開発を行うなど、具体的、実践的に指導する。企画書の作成技術の習得からスタートし、実践的な商品開発、販売までを学習する。徳島提案型のインバウンド商品の企画、開発を行う。（マーケティングコース）

「ビジネス経済」 一般企業や大学、海外の企業、学校とも連携し、国際取引に必要な基礎的知識や心構えについて、海外取引や進出を行っている企業の方に講演をしていただくなど、具体的、実践的に指導する。アジア、ヨーロッパの流行などについても学習する。（ビジネス経済コース）

(会計情報科)

グローバル化が進む中、海外取引に臆さない国際的な会計処理ができるよう簿記の基礎・基本を定着させ、さらに高度な会計処理を学びつつ諸外国との取引に対する適切な会計処理ができる能力の育成に取り組む。今年度はこれまで取り組んでいたBATICと共に地域企業から望まれている建築会計技術士検定への取組をはじめ。また、実践的な取組としてカンボジア日本友好学園内に建設される食品加工工場における商品群の原価計算を行い、経営コンサルタント体験をする。

「財務会計Ⅱ」 企業会計、税務に関する知識・技術を習得する。実務的な会計技術を身につけるとともに、専門家の協力の下、国際会計基準（IFRS）の歴史と変遷について学び、現在の国内会計処理との比較研究を行う。また、e-ラーニングを用いた企業会計の応用知識を習得し、外貨建や金融資産の会計処理、日商簿記1級の会計処理を身に付ける。また、グループ学習により上場企業の財務諸表を用いたケーススタディを実施し、プレゼンテーションやディベートを用い、意見交換することで会計情報をビジネスに活用する能力の育成に取り組む。

（情報処理科）

海外における実践的な情報運用力（情報をTPOに合わせ、必要な場所に必要な情報を効果的に示すことができる能力）を有する人材の育成に取り組む。

「ビジネス基礎」 商業全般を学ぶための基礎的・基本的な知識を身に付ける。

「総合実践」 インターネットをはじめとして情報の世界ではタイムラグなく行き来がある。そこで日本で情報処理だけではなく、海外向けの情報運用を学ぶことで、海外における実践的な情報運用能力を持った人材を育成することを目的に、プログラムを展開する。第1段階として、HTMLを用いた基礎的なWebを用いての表現方法を学ぶ。第2段階として地域企業と連携し、日本語版の地域企業のWebページをJimdo社のツールを活用して作成する。さらに、日本におけるPR方法と海外におけるPR方法の違いと表現方法についてGoogle社および経済産業省キーパーソンを外部講師として招聘し学ぶ。その上で、各企業のWebページを英語に翻訳し海外に適した表現によるホームページ作成に取り組む。

（全 学 科）

世界規模で物事を捉える人材や様々な人とのコミュニケーションを図れる能力を身に付けた人材育成に取り組むとともに、教育を通じた国際的な経済活動の新たなモデルケースづくりを目指す。併せて、生徒にグローバルな感覚やグローバルビジネスを担うプロデューサーの視点を持たせるよう海外との交流を積極的に進め、海外の生徒と共同で国際展示会への出展やインターシップ、商品の市場への流通について取り組む。

「課題研究」 海外とのテレビ会議などのやりとりを通して、連携型イベントを実施する。7名から10名を1チームとし、イベントの企画を中心とした学習を行い集客力のある地域貢献型のイベントを作り上げていくチーム、商品の企画から企業と連携し、実際の商品を作り上げ、イベントでの販売までを実施するチーム、カンボジア・ドイツを中心とする流行商品や定番商品を学び仕入・販売等を実施するチームなどに分けて実施する。また、基本的に「課題研究」の科目の中で取り組むが、今年度はビジネス研究部の部活動も含め、これまで培った基盤を活かしながら、カンボジア-日本友好学園と協力した商品開発を行うとともに、カンボジアにおける国際見本市への共同出展、ドイツのシェーラベルク職業学校と連携したマーケティング調査などを実施する。年間20回以上の国際間のテレビ会議を行いながら、海外と連携した商品開発を行い、国際的な商品見本市への出展、海外高級スーパーなどでの販売を目指す。国際見本市では、カンボジア-日本友好学園の生徒と本校の生徒が共同でブース出展し、開発した商品の海外での販売を目指して、ブース運営を行う。

## 5. 実施体制

### (1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
鈴鹿 剛	教諭	特別プロジェクト責任者
下田 稔彦	教諭	商業科主任
山上 麻里	教諭	会計情報科長
榊井 千歳	教諭	情報処理科長
大原 弘	教諭	商業科長
佐山 勝弘	教諭	商業科研究担当
谷沢 真樹	教諭	商業科研究担当
松下 洋平	教諭	商業科研究担当
中原 三智子	講師	商業科研究担当
貞野 志津子	教諭	情報処理科研究担当
村田 忠義	教諭	情報処理科研究担当
藤田 礼佳	教諭	情報処理科研究担当
池北 理香	教諭	情報処理科研究担当
谷崎 佳久	教諭	情報処理科研究担当
村雲 洋二	教諭	国際交流コーディネーター・情報処理科研究担当
吉永 剛	教諭	情報処理科研究担当
野田 委公子	教諭	情報処理科研究担当
志摩 美穂	実習助手	情報処理科研究担当
真杉 恭平	講師	情報処理科研究担当
中尾 小百合	教諭	会計情報科研究担当
笠井 知沙	教諭	会計情報科研究担当
橋本 幸子	教諭	会計情報科研究担当
市原 明	教諭	会計情報科研究担当
徳永 理恵	教諭	会計情報科研究担当
天羽 くみ子	講師	会計情報科研究担当

### (2) 研究推進委員会

氏名	職名	役割分担・専門分野等
永松 宜洋	校長	事業総責任者
守田 裕史	教頭	プロジェクト統括
本田 敦彦	教頭	プロジェクト副統括
下田 稔彦	教諭	商業科主任
鈴鹿 剛	教諭	特別プロジェクト責任者
山上 麻里	教諭	会計情報科長
榊井 千歳	教諭	情報処理科長

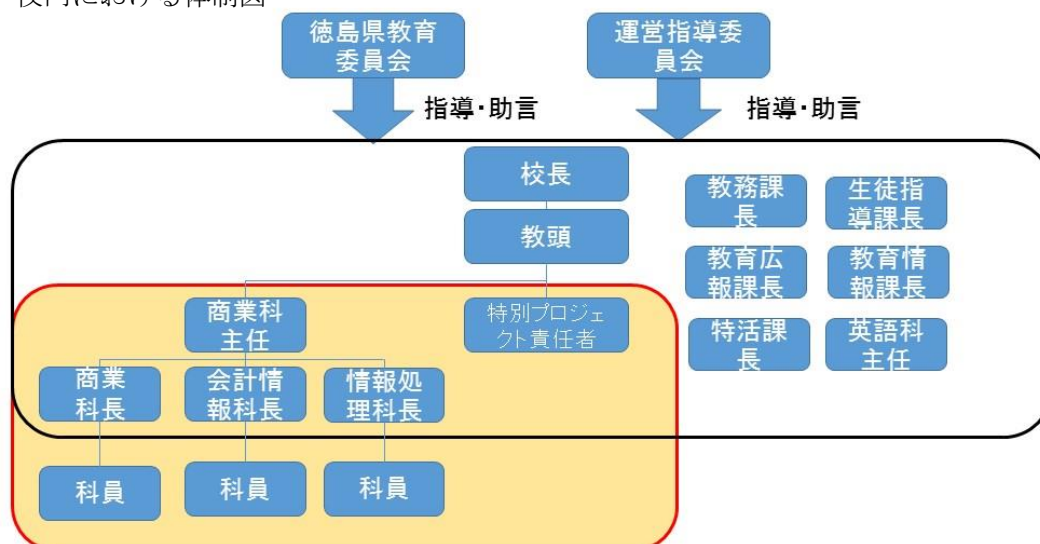


村雲 洋二	教諭	国際交流コーディネーター・情報処理科研究 担当
谷崎 佳久	教諭	教務課長
森影 浩章	教諭	特活課長
窪田 真久	教諭	生徒指導課長
石井 昌代	教諭	英語科主任
大原 弘	教諭	商業科長

(3) 運営指導委員会

氏 名	所 属・職 名	役割分担・専門分野等
疋田 光伯	四国大学大学院 経営情報学研究科 研究科長 教授	指導助言・地域活性、経営シ ステム工学
矢部 拓也	徳島大学大学院 総合科学研究部 准教授	指導助言・地域創生
勝瀬 典雄	兵庫県立大学大学院 経営研究科 客員教授	指導助言・市場流通
高橋 政俊	独立行政法人国際協力機構 四国支部 支部長	指導助言・国際交流
庄野 宗之	徳島県教育委員会 学校教育課 指導主事	指導助言・商業教育

(4) 校内における体制図



校内研究推進委員会 (黒囲)

校内研究担当者 (赤囲)



9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載